

合気道探求



道主対談

1+1=無限 一心に歩み続けること

尺八奏者 クリストファー遙盟

特集

第54回 全日本合気道演武大会

合気道ゆかりの地をめぐる

【第2回】開祖のパイオニア精神 北海道紋別郡遠軽町上白滝

新連載

誌上講習会：転換～片手取り四方投げ(逆半身)裏

第52号
2016.JUL

道主対談

一心に歩み続けること
1+1=1 無限

尺八奏者

クリストファー
ようめい
遙盟

PROFILE

在日尺八奏者。アメリカ、テキサス生まれ。1972年に来日。竹盟社宗家・人間国宝故山口五郎師に師事、82年、東京芸術大学大学院を修了。国内、アジア、旧ソ連、ヨーロッパ、カナダ、アメリカ、インド等で演奏し、また国際交流基金等による派遣・招待で各国の大学や教育機関にて日本音楽の教授活動を行う。古典を継承する一方で尺八という楽器の可能性を探って、他の分野の芸術家たちとの共演も多い。CDは「NAVARASA」「浩々妙音」(フライツワン・レコーズ)、「遊様羅の夜」,「遙なる笛」(テイチャク)、など多数。著書は、「ザ・尺八ー演奏習得の手引き」(2005年、音楽之友社)、「尺八オデッセイ」(蓮如賞受賞作品、河出書房新社出版、2000年)等多数。国際文化会館芸術監督を25年間務めた。現在、テンブル大学講師(日本音楽)、ブラバ尺八フェスティバルのシニア・アドバイザー。合気道四段。

合気道道主

植芝守央

尺八との運命的な出会い

植芝守央道主(以下道主) 合気道の

お稽古や、尺八について、日本の文化、邦楽と西洋音楽とを対比しながらお話を伺えればと思っております。

大学時代に日本に留学されたことが転機になりましたね。

クリストファー遙盟(以下、遙盟)

大学時代はインディアナ州にあるクエーカー系の大学、アーラム・カレッジで学んでいました。そちらにジャクソン・ペイリー教授がいまして、エドウィン・ライシャワーのお弟子さんだったんです。彼が60年代から早稲田大学との間に交換留学プログラムを作って、私はそのプログラムに1972年に参加しました。

早稲田に行ったら、合気道をやりたいたって思っていました。しかし、以前からトロンボーンとフルートをやっていましたので、先に尺八をやってみようと思い、いい先生がいなかと探しました。民族音楽の小泉文夫先生が「尺八を勉強するんだから山口五郎先生のところに行ってみ

ればいい」と教えてくださいました。それがきっかけで山口先生に師事し、以来ずっと続けています。

本当にすごい人と出会って尺八を始めた自分は、やはり日本に残るべきで、しっかりと学び、貢献しなければとの意識は、当時からぼんやりとありました。

雅楽の楽器としてやってきた尺八

道主 尺八の歴史についてお聞かせください。

遙盟 奈良時代から平安初期にかけて、雅楽の楽器として入ってきました。もう少し細い楽器だったのですが、現在の尺八の手孔は5つですが、当時の雅楽尺八は六つでした。

それが12世紀終わりに、急に雅楽から姿を消してしまいます。そこからいろいろな僧侶や詩人、例えば、一休禅師等が、自己表現の手段として使うようになりました。

江戸時代になると、天蓋をかぶって尺八を吹きながら全国行脚する虚無僧が現れ、また、箏、尺八、三味線の座敷芸、「三曲」と呼ばれるアンサ

ンブルのスタイルができました。

20世紀になると海外にも広がり、ジャズやロック、ポップスなどいろんなところで使われるようになってきます。本当に合気道と同じように非常に伝播しやすい伝統文化ですね。道主 「邦楽は日本発の音楽ですが、日本でしか通用しない伝統文化ではなくて、全世界、人類全体の財産である」とおっしゃられて。これは合気道とも共通しますね。

遙盟 そうですね。両方とも日本で生まれましたが、全世界に誇るべきものだと思います。

道主 尺八は、まったく白紙状態から山口先生に師事されたのですか。

遙盟 以前に楽器は習っていましたが、指導については問題ありませんでした。先生にはとても優しく、親切に指導していただきました。

私が困ったのは、日本の音楽の社会についてです。例えば月謝について、アメリカの場合は実際に受けたレッスンに対してしか支払いません。日本の場合はレッスンに行っても行かなくても毎月払いますね。それをよく理解していなかったのです。戸惑ってしまいました。



虚無僧写真 中世以降、全国行脚をする虚無僧が現れた

道主対談

植芝守央×クリストファー遙盟

11月11日 無限

一心に歩み続けること

形と内容、そのバランスが大事

道主 ご著書の中の「形と内容」について、大変興味深く読ませていただきました。

遙盟 山口先生の芸は内容的に充実しており素晴らしいので、当時私はそればかり習わなければならな
いと思っていました。しかし考えてみるとそうではなくて、日本の社会にフィットしながら、どうやって自分で新しいものを作り出すのかという、バランスの問題ですね。64歳になってやっと、少しわかってきたように思います。

形がなければ内容は生まれてきません。しかし、形ばかりだと内容は死んでしまいます。日本は、多くの学校や官僚的な場所では、形ばかりを重んじます。やがて60代、70代になると、逆に内容ばかりが大事になる。形はどうでもいいのだ、と。どうも、両方とも行き過ぎたところがあるんですね。

形を重んじることは大事なことですけれども、当時はそれに対する自

分の中の葛藤や戦いもたくさんありました。尺八も合気道も、両方をうまく調節しないと成り立たないんですね。

道主 まったくその通りです。形というものは長い歴史の中で作られてきたもので、内容がもちろんあつたからそれができ上がってくるわけですが、その形を崩してしまうと、やはり内容も崩れてしまう。両方のバランスを、ちゃんと理解していくことが必要だと思います。

遙盟 人間に喩えれば、目に見える魂が「内容」で、目に見えない肉体が「形」だと思います。もちろんその二つは相互的な関係にあります。肉体

を鍛えれば鍛えるほど、内容の魂が輝いてきます。あたかも肉体が魂の「器」になるかのように。合気道の道も、尺八の道も、その器を磨く手段だと思います。

道主 先生の著作の中で、山口先生が「型がしっかりとっていないと壊しても意味がない」というふうにおっしゃられた」と書いてあります。

遙盟 例えば合気道でも、変化技をやりますが、元の技がしっかりとっていないと学ぶ意味がありません。

道主 初心者が最初から変化技をやるうとしてもそれは無理なことですから、きちんと基本的なものを稽古した上で、積み重ねていくうちにその人の

持っているものが出てくると思います。

遙盟 尺八を習う時には、まず最初に音の作り方から始まります。それである程度基本ができてくると簡単な練習曲に移り、やがて古典曲をやります。そこまではすべて「型」通りに習ってきます。しかし、それらの型が完全に体に入って内化されると、初めて自由が生まれてくると思えます。例えば、演奏中に、習った型を突然壊し、表現を変えることもあります。が、その判断ができるのは、型がしっかりとできているからです。計画的なものではありません。変化技みたいに、場に即した行動だから、前もって「こうしよう」と思えばうまく行きません。

道主 自然にということですね。基本的なことをきちんとこなしていると、結果全体から醸し出してくるものがあるということですね。

遙盟 特に尺八の場合、そんなふうに自然に出てくる時が一番楽しいです。

道主 基本を守る。と同時に自由に



やる。その境目というのをどう指導されていますか。

遙盟 ちよつと変な言い方かもしれませんが、基本を徹底的に理解すれば、守ることもできる、捨てることもできる。もちろん、初心者にそのようなことを言っても意味はありませんが。

憧れの合気道との出会い

道主 合気道を始めたのはいつ頃ですか。

遙盟 76年頃にアルバイト仲間の友人が、小平市にある小林道場を紹介してくれました。

当時、小林先生は30代後半で、すごい力を感じ、見ているととても怖かった。しかし、初心者に対してはとても優しくったのを憶えています。
道主 合気道を始められた当時の印象をお聞かせください。

遙盟 合気道には、ずっと憧れを感じていました。あの当時は、それほど広く知られていなかったように思っています。

道主 ちょうど国際合気道連盟(一



[下] プラハ国際尺八フェスティバル'16にて、オーケストラとの共演。写真：アイバン・マリー (Ivan Malý)

A F)ができた頃で、加盟国は50カ国ぐらいでした。

遙盟 動きが綺麗だと思いました。師範の技は最小限の力で最大限の効果をもたらすものに見えました。これは尺八に似ていると思います。小さな、素朴な楽器ですが、大きな表現力を持っています。

合気道の技もちよつとだけ体の向きやバランスを変えることで、相手との関係が大きく変わります。それは大きな驚きでした。

とにかく小林先生のお稽古はとて

も楽しかった。笑ってばかりいました。当時私は日本語がまだよく喋れなかったのですが、先生には仲間に入れていただきながら食事をご馳走になり、一緒に飲んだりしていました。

道主 若い時のいい思い出ですね。

遙盟 その後、東京芸術大学に入りました。小平はちよつと遠くなったので、しばらく本部道場に通ったり、その後、多田先生の道場にも2年ぐらい通ったりしました。とてもいい勉強になりました。

道主 合気道は入門後ずっと続けておられるわけですね。

遙盟 就職活動や、本来の尺八の修行が忙しくなった時期に、10年くらいはブランクがありましたが、16年前に小林先生が新しい道場を開かれたのをきっかけに自分の稽古も再開しました。

合気道と尺八、ふたつの共通点とは

道主 合気道と尺八の共通点はどこなところにあると思われますか。

遙盟 合気道もそうですが、尺八の場合、簡単であればあるほどいいものができる。尺八自体が竹の管で、5つの孔(あな)が空いていない。そんな簡単なもので、あれだけの大きな世界を表現できるのがすごいなと思います。たった五七五という少ない材料で、大きな世界を表現する俳句と同じです。最小限の材料をもって最大限の表現を果たします。

道主 尺八の世界には、一つの曲でこの世を表す、「一音成仏」という言葉がありますが。

遙盟 そうです。一つの音だけでも、

道主対談

植芝守央×クリストファー・遙盟

1111 無限

一心に歩み続けること

そこに世界が入ります。よく思うことですが、合気道も、一つの技の中にすべての技が入っているような気がします。例えば天地投げ。本当に簡単な投げ方だけれども、その中に上と下、天と地と、完璧で綺麗なシンメトリーを保っています。だから飽きないですね、あの投げ技は。

道主 天地投げは、呼吸力が生かされて、その中で動作が完成してくるわけです。難しいですけども。

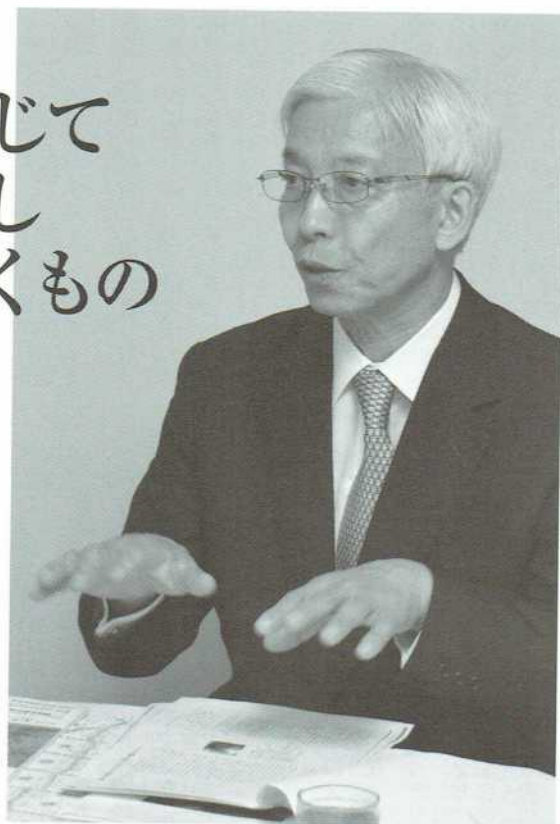
遙盟 難しいです。でも、道主の技を見て我々にもこれができるなどわかってきます。我々にも技が可能になる。尺八なら山口先生、合気道なら道主、あるいは植芝翁先生のような、見本を示してくれる方がいなければできない。可能性があるからそれに向かって頑張ることができるのです。

海外と日本、感じ方の違いとは

道主 尺八を指導する中で、海外の方と日本の方の感じ方の違いはあります。

遙盟 そんなにはつきりと分けられ

合気道は 稽古を通じて 自分を律し 高めていくもの



方で外国人はその文化背景などがわからないから、どんどん自分で表現の手段として追求してゆくのではないのでしょうか。

一般的に言えば、海外の人はあまり細かいところを気にしないで、大胆にやってゆきます。そこでもう少し基本的なことをやってほしいなと時々思います。その「怖いもの知らず」精神は評価できます。逆に日本人にはもう少し大きな考え方でやってほしいとたまに思うこともあります。

道主 合気道も戦後、今から65年くらい前から、一般にも門戸を開いたわけですが、それが今現在、世界130カ国に広まり、組織の大小の差はありますが、いろんなところで稽古されています。

日本の文化からでき上がったものの素晴らしさが、洋の東西を問わず、多くの方に理解して受け入れられています。そこで日本人が歴史も含めてさらに日本のものを理解していくとさらにいいのだと思うのです。

遙盟 確におっしゃる通りです。

海外で、現地の日本人が演奏会を聞きに来てくださいますが、自国の文化にはこういうのもあったのかとびっくりされることが多いんです。さらに日本人でない音楽家が尺八を演奏すると別な印象を与えます。様々な意味で刺激になります。

またおっしゃる通り、日本人はもつと自国の文化について意識があってもいいと思います。ただ一つ注意しなければいけないのは、国粋主義にならないことです。今、特にその危険性を感じています。日本だけで

はなく世界でも、自分の国は他の国よりも優れているというようなナシヨナリズムの高まりには、警戒感を感じています。

合気道も尺八も、国境の壁を越えて人々を統一する力があり、すでに世界の財産となっています。狭い見解を持つ政治家に利用されると逆効果になります。

道主 そうですね。やはり振り子は偏らないように、バランスよくそれぞれを理解していくことが必要です。

合気道も存じのように、稽古を通じてお互いを尊重し合うことを養っていきます。そこは自分と相手があり、一方通行にならないことが大切です。社会全体がそんな形であれば偏らないんじゃないかなと思うのです。

遙盟 逆にこちらからお伺いしたいのですが、道主が海外で指導なさる時に、何が一番足りないと感じられますか。

道主 その地域の指導に最初にあたった人の影響力が強いと思います

が、全体的にはいい形です。

合気道というのは先程申し上げたように、稽古を通じて自分たちを律し、高めていくものなので、ある意味一方方向になる可能性も秘めているのです。新しく入った方と前からやってる方、そこには技術的なレベルの差があるわけで、そこはお互いが大事にし合うべきところです。これは国内外問わず、みな一緒です。昔は、他の武道と比べながら合気道に入ってきた方が多かったように

思います。しかし最近では、合気道に

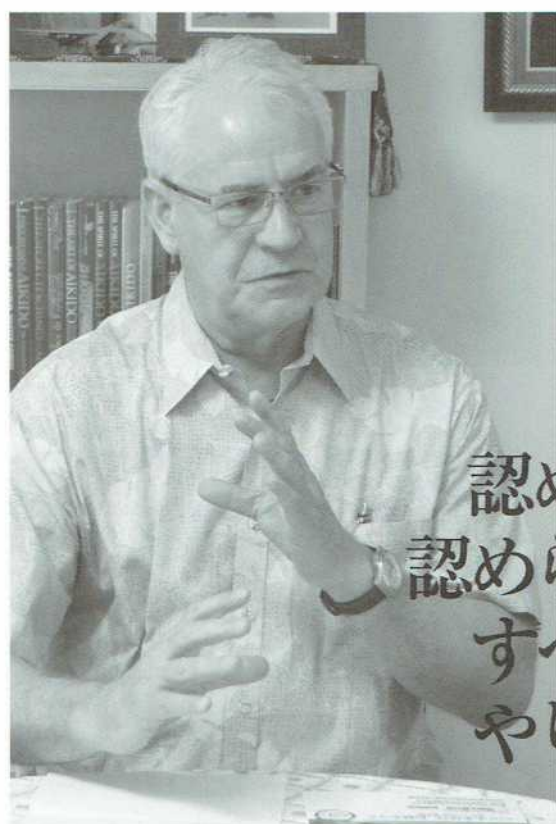
ついてある程度概念というか、予備知識があり、それをふまえて求めている方が多くなっています。そういう意味で、とてもいい形にな

認められても
認められずとも
すべきことを
やりぬきたい

っているのではないかと私は感じています。それは先達の指導者たちが努力してきたからこそだと思います。合気道の指導には、どこであつても言葉はそれほど要りません。現地に行つて、模範を示して、「ライクミー」と言えばみんな一生懸命やつてくれますから。

遙盟 尺八も同様、本来言葉によらないものです。ただ、場合によって、的確に言葉を利用すれば有力なツールとなります。山口五郎先生世代の邦楽家たちは、言葉による説明は大変苦手でした。もちろん先生に質問すれば一生懸命に答えてくれましたが、もつぱら見て真似するような習い方でした。師匠の前に座り、ひたすら先生の指を真似して、音を聞きました。そのような稽古でした。

だいたい、アメリカ音楽の先生たちは音楽をまず理論的に説明します。もちろん、それも有効な教え方だとは思いますが、しかし日本の場合はそのではないと、早いうちにわかりました。黙って、先生の芸を必死に観察することは大変に貴重な体験でした。





第54回全日本合気道演武大会を観覧するクリストファー・遙盟氏

もちろん、自分が教える場合は世代も違うし、文化や国籍も違いますから、できるだけ言葉も有効にしたい。ある程度ポイントを掴んでそれを説明したほうが、生徒の体験が充実するんじゃないかと思います。もちろんものまねも大事ですね。つまり、頭と体の両方をフルに活動させたい。

見て学ぶ、日本の習い事の世界

道主 昔から日本の習い事では、お手本を見て、それを真似して積み重

ねていくということが一般的でした。昭和20、30年代の開祖の時代は、とにかく指導者の技を見て、その中から感じとり、繰り返し行っていたものです。

それがだんだん一般の多くの方々に理解していただくようになり、また、海外の方々も増えてきたとなれば、ただ前て手本を示し、さあどうぞ、だけではいけません。

生徒さんが自ら見て学ぶと同時に、指導者が分かりにくい部分には説明を与えるという、両方が大切になってきています。

遙盟 つまり、教え方がメソッド化されるといいことですね。でもそればかりに頼ってしまうとよくないんですよ。

道主 やはりまず先生をよく見るということが大事です。部分ではなく全体をよく見て、それを汲み取って、頭のてっぺんから足の先までできるようにする。そんなふうには私思っております。

遙盟 昔、多田先生からご指導いただきましたが、そこで一番得たもの

は、もちろん技もすごいのですが、先生は、稽古が終わってからその日の稽古でやったことを頭で想像しなさい、と5分ぐらいじつと頭の中でそれを繰り返ししていました。大変いい「行」でした。今でもできるだけやろうと思っていますが、やはりイメージトレーニングはとても大事です。

合気道と尺八、その相乗効果

道主 合気道を稽古し、尺八も稽古し、また指導されておられますが、2つをなさっていることで得られる、相乗効果はいかがでしょうか。

遙盟 まず体の使い方ですね。合気道の場合は体をバランスよく、有効に使わなければ技が成り立ちません。尺八にも体の使い方が大変重要なのですが、尺八吹きは案外それに気づかないところがあります。姿勢、体の内臓や筋肉の意識、または呼吸を、どういうふうにするかいいかが大きなポイントです。そこで尺八と合気道は大いに共通性があります。

最近、例えば尺八のワークシヨツプでは、体のバランスの取り方を確

認するために、まず、皆さんに船漕ぎ運動をしてもらいます。そのあと、二教、三教などの手首の鍛え方を見せます。多くの尺八吹きたちが手首の痛みや腱鞘炎などに悩まされます。合気道の手首の鍛え方をきちんとやってみれば、それがある程度案になります。

そして、船漕ぎ運動をしながら尺八を吹かせます。要するに、腰のほうを意識させるのです。尺八はまず肺で呼吸しますが、実は呼吸は、横隔膜と背筋、そして最後に胸筋も使います。それを口だけで言ってもわからないのですが、船漕ぎ運動をしながらさせると、すぐに体で感じ、実感が湧いてきます。それから、歩きながら尺八を吹いてもらいます。

道主 私は尺八を吹いたことはいませんが、合気道で臍下三寸、臍下丹田に中心を持ってくる、肩の力を抜いて楽にして、自然な姿勢で稽古に臨めというのです。尺八も、肩に力が入ったら吹けないですね。

遙盟 肩に力が入ったら吹けません。要するに、尺八の本当の音は横隔膜、



日本の伝統から生まれたものを正しく後世へ伝えたい

腰の方からきます。他の楽器もそうだと思います。ピアノだって肩に力が入った状態で弾くと、力が肩で止まってしまつて楽器に伝わっていきません。

尺八を吹く時には、単なる体と息ではなく、体全体を楽器にしなければならぬのです。それを生徒にいくら口で言ってもすぐ理解できませんが、実際に少し合気道をすれば、一発でわかる。

でもやってもらいます。そうするとやっぱりいかにして足と腰が大事かということが理解できます。そういう意味で、合気道は本当に強力な尺八の教育ツールでもあります。

道主 これからの意気込み、夢、目標などをお聞かせください。

遙盟 できるだけたくさんの人に、尺八のよさ、日本の文化のよさをわかつていただきたいと思います。

ただ、実は、私は人の前に出るのがあまり好きではないのです。もちろん

ん、演奏会などの必要な時には出ますが、有名人になりたいわけではななんです。山口先生がよく引用されていた、武者小路実篤の「人見るもよし。人見ざるもよし。我は咲くなり」。

人に、世間に、認められても認められなくても、自分のすべきことをやりぬきたい。とても素晴らしい言葉だと思います。

その結果、無理矢理集めようとせずに自然に人が集まってくればそれでいい。そしてできるだけ、貢献し

たいと思っています。

道主 「尺八は音の色と音のぬくもり、合気道は動きの優しさ」とおっしゃられて、本当に勉強になります。いいものを時代に合った形で受け継ぎ、そして繋げていくということ。

尺八も合気道も、日本の伝統の中から生まれたものを正しく後世にしっかりと伝えていくことが私たちの役目と思っております。

本当に今日は貴重な時間をありがとうございました。

トピックス

クリストファー・遙盟氏の作品をご紹介します。

「尺八オデッセイ—天の音色に魅せられて」
河出書房新社(2000年)



尺八演奏を通じて感じ取った日本と海外の音楽、文化、教育観のずれが書かれた作品。第6回蓮如賞受賞作

尺八とコントラバスのデュエット
クリストファー・遙盟&マーク・イズ

日本在住アメリカ人尺八奏者クリストファー・遙盟とカリフォルニア在住日系人ジャズコントラバス奏者マーク・イズによるコラボ。素晴らしい音色に思わず聴き惚れます

